



スポーツイベントと 持続可能性

SUSPON 平和とスポーツ部会、NPO法人インターナショナル世界平和の響き 理事長 坂崎 一

東京2020大会を機に 日本発で「平和」をアピール 世界193カ国の国旗掲げ、世界平和を願うイベントも

スポーツイベントと持続可能性を考えると、「平和」であることがとても重要になってきます。平和であることは、スポーツイベントが持続していくための前提と言えるでしょう。過去には、五輪が戦争で開催できなかったということもありました。その意味で、社会の平和は、スポーツイベントの継続と持続可能性の確保になくてはならないものと言えます。

そうした文脈の中で、私たち「NPO法人インターナショナル世界平和の響き」は、SUSPON(持続可能なスポーツイベントを実現するNGO/NPOネットワーク)に参加し、「平和とスポーツ部会」を担当しています。

人々の心の中に平和のとりでを築く「WPPC」

社会を平和にしていくには、どうしたら良いでしょうか？ 1つの考え方として、ユネスコ憲章に次のような記述があります。

「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」

当NPO法人では、ユネスコ憲章の考え方も参考に、世界平和を願う

イベント「WPPC」(World Peace Prayer Ceremony: 各国の平和を祈るセレモニー)を国内外で開催しています(写真1)。

WPPCは、国家、民族、宗教、思想などのあらゆる違いを超えて、世界193カ国の国旗をすべて掲げながら、参加者全員でその国の平和と世界の平和を願うセレモニーです。すべての国に等しく敬意を表しつつ、世界平和という共通の願いのもと人類の心を1つにすることを目的にしています。参加費は無料です。

193カ国の国旗を一国一国掲げていくセレモニーは通常、アルファベット順に進めていきます。最初はアフガニスタンで、同国の小国旗を受け取った旗手がステージの中央まで歩いていき、小国旗を掲げながら「アフガニスタンが平和でありますように」と発声し、ステージから退出していきます。続くアルバニア、アルジェリアなどでも同様の動作を行い、ザンビア、ジンバブエ、その他のすべての地域までやってセレモニーは終了します。



写真1 ブータンで実施したWPPC(各国の平和を祈るセレモニー)の様子

セレモニーは、お子様からお年寄りまで、日本人も外国人も、障がいがある方もない方も参加でき、通常40分前後で終了します。実際の様子は、当NPO法人のホームページ(<https://sekaiheiwa-no-hibiki.or.jp/>)のブログの「写真と録画」ページをご覧くださいと思います。

当NPO法人の設立認証は2010年6月で、これまでの9年間に累計4万人以上の方々にWPPCに参加していただきました。開催した国は、日本を含めて9カ国95カ所に上ります。

参加していただいた方々の「心の中に平和のとりでを築く」ことに、少しでも貢献できたのではないかと考えています。

東京2020大会に向けて「平和」をアピール

来年は東京五輪・パラリンピックが開催されます。当NPO法人は東京2020参画プログラム(応援プログラム)に参加し、東京2020大会の機運を盛り上げるとともに、平和の大切さをアピールさせていただいています。写真2は参画プログラムとして実施するWPPCのチラシ例です。

世界から多くの人々が集う東京2020大会を機に、日本から平和をアピールすることに特別な意義があると考えています。それは次のような理由からです。

- (1) 五輪・パラリンピックは「平和の祭典」でもあり、平和を世界にアピールする絶好の機会になります。
- (2) 東京2020大会の期間中には、広島(8月6日)と長崎(8月9日)の原爆の日があります。そうしたタイミングで、世界に向けて「平和」を

アピールすることは、ひととき大きな意味があると考えます。

東京2020大会で「平和」を高らかに、力強くアピールできれば、大会に関与されたすべての人々の「心の中に平和のとりでを築く」ことにつながっていくのではないかと思います。

そこで、当NPO法人として、次のような提案をさせていただきたいと思います。

(1) 開会式などで「平和」をアピール

開会式の入場行進の際、会場(新国立競技場)の電光掲示板に、各国の国名とともに「平和」という言葉をその国の公用語と英語、日本語で表示したり、テロップで流したりしてはどうでしょうか。例えば、「United States of America 米国 peace 平和」といった感じです。各競技会場でも同様の取り組みを行っても良いかもしれません。

(2) 平和の折り鶴を観客らに配布

観客らに折り鶴の作り方を教え、その場で作ってもらいます。折り鶴には、作った方の国の公用語で「平和」と記入していただきます。集まった折り鶴を、競技会場の入口付近などで観客らに配布します。

(3) silent prayer (黙祷)

東京2020大会期間中の8月6日(広島の日)、8月9日(長崎の日)に、平和を祈念して silent prayer (黙とう)を奉げるよう、



写真2 東京2020参画プログラムとして実施するWPPCのチラシ例

各方面に提案したり働きかけたりしてはいかがでしょうか。黙とうは各競技会場でも実施します。

(4) 「平和のキャンパス」(仮称)

競技会場などの壁を利用したり、掲示板などを設置したりして、観客らが母国語で国名と「平和」の言葉を自由に書けるようにしてはいかがでしょうか。

壁や掲示板の前で記念に写真を撮る人も多く現れ、「平和」のメッセージがSNSなどを通じて、広く世界に広がっていくかもしれません。



来年夏にかけて、東京2020大会の機運が盛り上がっていくと思います。「スポーツの祭典」の機運の盛り上がりと歩調を合わせるように、「平和」への機運も盛り上げていけるよう、微力ながら努力していきたいと思います。E